

## 令和4年度穎明館高等学校卒業式式辞

穎明館第36期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、心より、お祝い申し上げます。

本日は、学園本部から理事長の堀越正道先生、副理事長の堀越由美子先生、堀越高等学校校長の掛本寿雄先生をお迎えし、ご列席の保護者・教職員・吹奏楽部員、代表生徒の皆様とともに、卒業式を挙行できることを誠にうれしく思います。

卒業生の皆さん、皆さんは穎明館での学校生活6年間、実によく頑張りました。とくに高校生活は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた3年間になりました。高校入学後はオンライン対応に始まり、高校2年では感染拡大の中、36期生が中心になって保護者・ご家族を迎えて文化祭を成功させました。計画立案しては幾度もコロナに阻まれた宿泊体験学習。行かせてあげたかった。校長として私には悔いが残ります。それでも皆さんは、冷静に嘆くことなく、前を見て、日常の学校生活を大切にしていました。高校3年生になってからは受験勉強によく励みました。校長として初めて行ったHR行脚。私の激励の言葉を真摯に受け止めてくれた皆さんのまなざしが忘れられません。ありがとう。

さて、穎明館の教育目標は「国際社会に羽ばたく真のリーダーの育成」です。そこで今日は卒業のはなむけとして、改めて「グローバルリーダーたれ」の言葉を贈りたいと思います。

今日、よく言われるように人類が直面している課題の多くには、決まった正解がありません。3年間続いてきたコロナ対応は、まさにその典型的な例でしょう。その他にも、地球温暖化、人口爆発、ロシアのウクライナ侵攻にみられるような紛争の数々。国内でも少子高齢化や経済的な格差、地方都市の衰退等々、解決策を考える時、決まった正解のない課題が山積しています。こうした決まった正解のない課題に対して、自分で考え、自分で解決策を打ち出す高い知性を養い続けてほしいと思います。穎明館の校訓を胸に刻んでください。

人生は何事に依らず その目標は高く設定するべきである  
その推進には 高い知性と理性を必要とする

また、今日では、国内、海外問わず、どこに住んでいても、どのような仕事に就いていても、グローバル化の波に対応できるような多様性への理解が必要となります。視野を広げて、お互いの国籍、性、民族や言語、宗教や文化、価値観等の違いを理解し、尊重することが大切です。EMKのE(Experience)—— 穎明館で海外体験学習の機会をもつことのできなかつた皆さんですが、これから積極的に海外へ出ることも期待しています。

ここで、私の高校時代の経験を一つ紹介します。まだ、高校留学が珍しかった時代、仲のよい友達がAFSで1年間の留学に出発する際、当時完成したばかりの成田空港に見送りに行きました。「元気に行って来いよ」と手を振りながら、「自分もいつかきっと飛び出すぞ」と決意しました。我ながらささやかな「国際派宣言」です。その時は、穎明館に就職して生徒引率という形で、頻繁に海外に行くことになるとは思いませんでしたが……。ちなみにその友達は現在、英文学者として活躍していますが、今でも1年に2、3回は顔を突き合わせる、変わらぬ付き合いを続けています。友達はいいものですね。皆さんも穎明館で培った友情を大切にしてください。

卒業生の皆さん、「グローバルリーダーたれ」——皆さんが、「グローバルな視野に立って、人類社会のために何らかの形で貢献しよう」と考えるならば、立派なグローバルリーダーです。国内、海外問わず、どこにいても、どんな活動をするにしても、広い視野に立って、世のため人のために役に立とうとする気概を忘れずに持ち続けてください。

式辞の結びは創立者堀越克明先生が、かつて式辞でよく紹介されていた旧制第一高等学校寮歌です。創立者のご自身の学生時代を振り返って、寮歌の歌詞の一節をその解釈とともにいつも懐かしそうに語られていました。学校法人堀越学園百周年の節目に当たる今年、創立者に敬意を表しつつ、卒業生の皆さんに、穎明館における最後の激励のメッセージとして贈ります。

春 <sup>よみがえ</sup>甦るときめきに 燃ゆる <sup>わかぎ</sup>若樹の光より

いのちの群れはわななきて 大地の <sup>つち</sup> <sup>よはひ</sup> 齢をささやきぬ

真理のみちの <sup>みどりご</sup> 嬰兒が 宇宙の <sup>あめ</sup> <sup>しらべ</sup> <sup>みは</sup> 律に瞳りけむ

双眸にやどす <sup>かがや</sup> 耀きを 生命の <sup>いのち</sup> <sup>うた</sup> <sup>たれ</sup> 詩と誰が知る

寒い冬が終わり、再び春を迎えて、木々も芽を出そうとしている。若木の枝を通してさしてくる陽の光が輝き、いきいきとした生命力に満ちた若者たちは、今、何事かを成そうと胸をときめかせ、大地にしっかりと根を張って生きていこうとしている。

人間が人間たるゆえんは、一生涯かけて真理を探究していくことにある。真理探究の途上にある若者たちが赤ちゃんのように純真な魂で、天地大自然の奏でる生命の歌、シンフォニーに聴き入っているその時、純粋な瞳に映る光景は、天地大自然の生命そのものだ。

卒業生の皆さん、純粋な気持ちを忘れずに、大いに知恵を得て生きていくことが、皆さんの人生を豊かにします。自然に恵まれた穎明館で、豊かな学校生活を送ったことに感謝しつつ、これからさらに大きく羽ばたいていってください。

誇り高き穎明館36期生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの人生に幸多かれ。

以上、令和4年度穎明館高等学校卒業式式辞といたします。